

令和4年4月4日

---

2022.4 から施行される IJF ルール変更点

---

審判部部長 佐藤陽介

- 変更点 1: 技が中断せず、継続した場合はスコアである 技が中断した場合はノースコア。
- 変更点 2: 技有の基準 1 「体側全体」が 90 度以上背中側、もしくは片方の「肩」と「背中上部」が接地した場合、技有とする。  
体側全体が(90 度以上背中側に傾いて接地した場合)肘が外側に出ているスコアを与える「体側の全体」は「腰」と「肩」のポジションをみる。  
補足※今までは引手を引いて肩が付いていれば多少は体がうつ伏せ気味でもスコアにしていたが体の傾きが90度かどうかで見極める。
- 変更点 3: 技有の基準 2 体側全体が 90 度以上背中側、もしくは片方の「肩」及び「背中上部」が接地した場合、技有とする。  
体側全体が(90 度以上背中側に傾いて接地した場合)肘が外側に出ているスコアを与える。  
補足※一部分が畳に接地していればスコアとして認める。
- 変更点 4: 技有の基準 3 「受」が同時に両手、両肘をついた場合、「取」に技有を与えると共に「受」にも指導を与える。  
補足※寝技の攻防に移った場合「受」が有利になったら「待て」。累積指導 3 になった場合は「反則負け」を優先させる。
- 変更点 5: IJF 通称「Rollover counter technique (めくり：ジャンプオーバー)」はノースコアである。  
補足※谷落・内股すかし・内股返しなどは有効。寝技の攻防としては継続していれば認める。
- 変更点 6: IJF 通称「Reverse Seoi Nage (逆背負投)」はノースコア、「指導」である。  
補足※故意なのか、たまたま片襟背負で反対側に落ちたのか見極める。
- 変更点 7: 技の最後の動作で帯より下に触れることを認める (投げた場合はスコアとなる)  
技が中断した場合に帯より下を掴んだ場合は寝技としてみなす (スコアやペナルティは与えない)。  
補足※VTR では主に払巻込・外巻込を指し、背負投からの脚取りや脚を抑えながらの小内巻込などは認めない。
- 変更点 8: ポジティブな展開 (ブロッキングをしていない場合) であれば「奥襟」と「襟」を認める。

変更点 9:帯、片側、クロスグリップ、ピストル・ポケットグリップはすべて標準的な組方ではない 標準的な組方ではない組手の場合、技の準備を行う時間が与えられる。

補足※攻撃を仕掛けようとしていなければ「指導」

変更点 10: (相手の)組手を片手、もしくは両手で切り、直ちに組手を持ち直してポジティブな展開であれば、「指導」ではない。

(相手の)組手を片手、もしくは両手で切り、直ちに組手を持ち直さない場合は「指導」を与える。

補足※脚で切った場合、叩いて切った場合はその後の動きに関係なく「指導」

変更点 11: 「柔道衣の直し」、「髪の直し」は 1 試合にそれぞれ一回認められる。2 回目は「指導」である。

変更点 12: ヘッドダイブは危険な為、「反則負け」になる。

補足※頭を付けずに正面から飛び込むような技はもちろん「反則負け」。近ごろは蟹バサミも増えてきている。

◎柔道衣の規格の変更については全柔連からの通達があり、高体連・中体連では 2 年の延長措置が約束されていますので即適用されることはありません。

全柔連 HP : 【審判委員会】国際柔道連盟審判規程一部改正 (2021.12) 解説動画の公開について参照

<https://www.judo.or.jp/news/9672/>